



安心感の中で
育まれる感謝の“おもい”、
それがYMCAのキャンプ

築山 泰典

Yasunori Tsukiyama

日本野外教育学会理事
福岡県キャンプ協会理事
福岡大学スポーツ科学部教授

▼ 外から見た後、中から見てみると・・・

20歳の時、大学で初めて野外教育に出会いました。小学生の子どもたちとテント泊・自炊は当たり前。大きな荷物を担いで沢登りの後に、山の中腹でブルーシートを用いてビバーク泊。

私自身ワクワクしながら、そんな冒険的キャンプの虜になっていました。ベースとなるキャンプ場で、あるYMCAのキャンプと一緒にになりました。それが初めてのYMCAキャンプとの出会いとなります。どこか緊張感にあふれている私たちには、何か、子どもたちと一緒に楽しそうに過ごすリーダーに対して何か「ゆるさ」を感じた記憶があります。

そんな冒険教育的なキャンプを5年ほど続けた後、3年間は民間企業へ就職したため、キャンプからは離れてしまいました。その後、京都YMCA国際福祉専門学校の専任教員として8年間程奉職させて頂くこととなりました。この間、専門学校の学生と子どもキャンプやファミリーキャンプの企画運営、スキーキャンプのディレクター、そして私立中学校海浜実習の全体指導等、YMCAキャンプに関わらせて頂くことができました。讚美歌を歌ったり、お祈りをしたり、聖書の話をしたり聞いたり、それまでのキャンプとは異なる文化に戸惑いも感じましたが、比較的早い段階で「心地よさ」を感じる事ができました。また、そこで関わるリーダーたちの様子は、子どもたちと戯れながらも、常に優しさにあふれ「安心感を醸し出している様子」に感心させられました。“メンバーズ・ファースト”を常に体現化していることに気づかされ、そこには「ゆるさ」のかけらも感じられませんでした。そして、そんなYMCAキャンプが私も大好きになっていきました。

▼ 目先の変化ではなく、もっと先の変化でも・・・

2017年に日本野外教育学会は設立20周年の記念大会が開催されました。今でこそ、多くの大学で野外教育を専攻することができるようになり、私自身もその一端を担っているわけですが、キャンプに対する教育効果の研究手法として、「キャンプ前後の比較と数か月後の継続性で良いのか」との議論もあります。確かに、教育手法として短期間の有効性を検証することも必要だと考えます。また、私自身そのような研究手法を主に扱っています。

また、外部からの委託による研修などで野外教育を用いる場合は、クライアントの要望に応えるために、目に見える形で野外教育プログラムの成果を見せる必要もあります。しかし、YMCAキャンプ、特に子どもを対象としたキャンプでは、もっと長期の例えば、「その子が大人になった時を目指す教育効果」であっても良いのではないかと考えます。決して、「安全で楽しければそれでよい」と無責任なキャンプを推奨しているわけではありません。

何らかの教育効果を短期間で求めるためには、キャンパーに関わるリーダー達に変化を促すような介入を強いる必要が出てきます。結果としての変化や成長ではなく、ある種の強要された変化や成長は、安心感を土台とするYMCAキャンプにはそぐわないのではないのでしょうか？YMCAキャンプの大きな魅力は、そのキャンプで育った子どもたちが将来リーダーとして、そのキャンプに関わることができることにあります。そんな長期のキャンプシステムこそが、他にはないYMCAキャンプの魅力だと考えています。



▼ 感謝の気持ちは自己肯定感の現れ・・・

年齢の影響もあるかとは思いますが、YMCAキャンプと出会ってから、常にキャンプの最後には感謝の気持ちが溢れます。一緒にキャンプの運営に関わってくれたスタッフや施設の方々、キャンプに参加してくれたキャンパー、そして様々な場面を提供してくれた自然。

不思議と、キャンプ後の参加者の感想文でも感謝の表現があふれています。今、私はキリスト教には関わっていないので、讃美歌も聖書もキャンプの中にはありません。しかし、自然に対して、周りの人々に対して、様々な場面で「祈ること」は多くあります。そんなキャンプディレクターに成長させてくれたのもYMCAキャンプだと感謝しています。

多くの場面で青少年の自己肯定感に低さが課題として挙げられます。自己肯定感が低い時、人には感謝の気持ちは生まれません。キャンプで感謝が育まれることは、その人の自己肯定感が高まることにつながると考えます。ただ、ディレクターの立場としては、無事にキャンプが終えられる安堵感があっても、「もっとこんなことができたのでは」との思いもあり、自己肯定感はなかなか高まらないのも実情です。

そんなYMCAキャンプで育ったキャンパーがリーダーとなり、安心感の中でキャンパーと共に感謝の想い・思いを育み続けるキャンプがこの100年を通過点として続いていくことを願い、これからもずっとキャンプにYMCAに関わっていきたいと考えます。

Profile



公益財団法人福岡YMCA 評議員 学校法人福岡YMCA学園 理事
元京都YMCA国際福祉専門学校専任講師
日本野外教育学会理事
福岡県キャンプ協会理事
福岡大学スポーツ科学部教授
1969年京都生まれ。福岡大学スポーツ科学部教授。
1998年から2005年まで京都YMCAに奉職
2006年から現職

【取材：福岡YMCAウエルネス事業部 平岡正春】